

葡萄の香



日本基督教団
酒田教会

〒998-0037
酒田市日吉町
1-1-7
TEL 0234-22-1224
牧師 塚本恭子

聖書 使徒言行録3章1～12節

キリストの名によって歩きなさい

牧師 塚本恭子

人間の歴史をキリストの誕生と聖霊降臨で分けると創造からキリストの誕生までは神の創造の部分で、創造神がイスラエルを選ばれた故に神が選民にアプローチするという歴史の展開。次の部分、主イエスの誕生から十字架までは、旧約時代から予言されたメシアの顕現の時。神の子が受肉した時で、その区間は、イエスによる奇跡と教えと業が行われ、神の子が十字架に架かるという神の壮大な御計画、救済の時。そして、十字架の後、聖霊降臨によって示された最後の部分は、終末の時、完成の時、キリストの霊の働く宣教伝道の時。キリスト

の霊がこの世の完成まで働く、それは教会の時といわれる。

今朝の御言葉はその完成の時。私たちが悔い改めて主の霊の導くまに生きる、霊の支配の中で生きるという新しい生き方をすることを、ルカはペテロの美しい門での奇跡物語で表わしている。奇跡とは「驚くべき出来事」のことを言うが、今までなかった事が弟子たちの宣教活動に起きた。驚くべき出来事が弟子たちによって行われた、その初めの出来事。神の霊に満たされて宣教活動をする主の弟子ペトロとヨハネの初めて奇跡が記されている。

★その時は午後三時の祈りの時。時間の数え方に関してユダヤ人は特徴があり、彼らは夜明け(朝)の六時から日没の(夕方)六時までを十二等分して数えていた。午後三時は第九時と言われて、この三時の夕べの祈りはユダヤ人が神殿に集まって、自分の体を神にささげて祈る献身の祈りの時。

今、ペトロとヨハネは、午後三時の祈りをするために神殿に上った。ところがその「美しい門」のところに、今彼らの目の前に、「生まれながら足の不自由な男が運ばれて来た」。この言葉は、人間が生まれながらに持っている原罪、罪を象徴的にルカは語っている。私たちの誰でも持っている罪について。この罪からの解放がどのようにしてなされるのがこの御言葉のテーマ。

ルカがこの使徒言行録を書いた時代は、親が罪を犯した結果として子供に罪が現われる、身体が不自由になると言われて、そのことが神の裁きで「罪人」になると信じられていた。だから人間の罪を表わすのに、人間の肉なる体で表わしていた。当時は当然、罪人は神殿に入れなかったので、彼は「神殿で神に祈ったことのなかった」、神と交わりの出来なかつた人をこの物語は象徴的に登場させて、私たちが神との交わりをどうあるべきかを物語っている。

★人間の心の中の罪の世界、神に祈ったことのない人間とは、すべての事柄に対して自己中心的に考え、主体性のない自立できない人のことを言う。いつも誰かに頼って生きることを考え、誰かの世話になり、時には人生に消極的になり、自分の人生の

すべてを他人の性にして絶望する生き方をしている人が物語られていた。この世の中に働く聖霊とか、真実を否定し、自分中心に世界を見る人、神の意思や神の働きを認めないという罪の中にある人々を指摘している。これらのことをルカは次のように表現している。彼は「神殿の境内に入る人に施しを乞うため、毎日「美しい門」という神殿の門のそばに」人々に抱きかかえられて連れてこられて、物を置くごとくに、置いてもらっている男と。まるで主体性がなく、そして物乞いをしている男を物のように表わされている。

★敬虔なユダヤ人は、施しをすることや断食する、祈りを奉げることは、善行による信仰深いこととされ、義人の行為とされていた。だから多くのユダヤ人の施しは、慣わしになっていた。そのために彼は当然のように施しを受けて生きていた。彼は、今日も毎日の行動である行為、ペトロとヨハネが境内に入ろうとするのを見て、「施しを乞うた」。ペトロはヨハネと一緒に彼をじつと見て、「わたしたちを見なさい」と言った。この「見る」というのは、出会いの大切な言葉。今、ペトロとヨハネは「わたしたちを見なさい」に対して、この男の人は

「ふたりを見つめて」。この出会いは、キリストの霊によるもの。キリストを知りなさいという意味を持つ言葉。

★「原罪」、人間が生まれながらもつ罪は、ここでは人間の欲望で物を持つことを望む、所有することの罪をいう。健康や財産や名誉や地位を。あるいは自尊心、知識。学問。美貌。若さ。いろいろなものを所有することを人間は望む。私たちはそれを所有することが幸せと考えるが、それを失うと不幸と言うことになる。しかし聖書は私たちに人生の最も大切なものは、所有することではないという。ペテロがこの男の人が本当に望むものは何であるのかを今見透かしている。

★ペテロの「わたしたちを見なさい」、それはキリストを見ること、知ること。そこに本当に大切なもの、キリストの中に真実が隠されている。ペトロは言う。「わたしには金や銀はない」。この御言葉は「わたしには所有しているものはない」。

彼らは「金、銀」に勝るものをもっている。その金、銀に勝るものをあげようとペトロは、今、足の不自由な人に言う。

★金銀に勝るもの、それは「ナザレの人イエス・キリストの名によるもの」。その名に

よるとは、キリストに選ばれて新しく生きること。霊におけるキリストの現臨の中にキリストの名によって生きること。

この足の不自由な男の人に、「イエス・キリストによって」与えられた悔い改めによる洗礼で、聖霊が導き、彼が自律し「立ちあがって歩く」ことができるようになった。キリストの霊に生きること、罪の赦しが与えられ、新しく生きること。それはあなたが重い罪から解放されてあなたらしく生きる力が聖霊によって与えられるから。この男の人は「キリストの名によって歩き始めた」のです。

(6月22日主日礼拝要約)

(2)

聖書 ヨブ記3章3節

わたしの生まれた日は

ほろびうせよ

長老 齋藤 造酒雄

昨年1月28日の塚本恭子牧師による説教『ヤコブの手紙』にいたく感動し、つまり説教中に聖霊が降りたのかもしれない

が、直後から昭和40年に購入した『アメリカ百科事典』で「マタイ伝」から新約27と旧約39項目を読了しました。良い箇所や知らなかった部分をこのノートに英語を記録し、その中の12~3箇所を最近日本語にしました。今日はギリシャを旅行されている牧師のことを思いながら、聖書がどんなに素晴らしい本であるか、又アメリカの神学者たちの知識を通して神について学びたいと思います。

1. 『ガラテヤ書』の項目には「この書はオーガステインが論争を呼び起こして以来神学者らの偉大な源になってきた書である」とあります。

2. 『ピレモン（フィレモン）への手紙』には「この短い手紙は新約聖書という宝物の中において最も絶妙な純粋さを持った宝石のような光を放っている」パウロのみが書簡の芸術を持ってこの短い傑作を書くことができただろう」とあります。

3. 『ヨブ記』には「アルフレッド・テニスはこの書を古代、そして現代における最高の詩と見なした」とあります。「エホバの神には人間には限界があるので万物に對して神が統治している神秘さを言ったり、理解したりできないと言う高度な道が備わ

っている」ともあります。

P. T. フォーサイスというスコットランドの神学者はうまく述べました「我々には答えは分かりませんが神の答えを信じるのです」と。

長老として活躍した石川弁姉妹は言っていました。「私は夫に死なれ、息子に死なれ、どうすることもできない時にヨブ記に救われたのです」と。今日の聖書の箇所も小生大学の卒論で書いたトーマス・ハーディの『薄命のジュード』という長編小説に出てくる箇所です。宇宙意志という悲觀的思想を發展させたシヨペンハウエルの影響で出来上がった作品です。

4. 『伝道の書』（コヘレトの言葉）「この書はヘブライ語の書の他の部分と全く違って、厭世主義と懷疑主義の文体が色濃く特色づけられている。」自殺したヘミングウェイもこの書を大好きだったらしい。

5. 『雅歌』 ここには恋愛、人間愛、反論などが書かれ人間的で面白い。

6. 「イエス・キリスト」の項目を読んだらトマス・カーライルは「父よ、彼らを赦して下さい。彼らは何をしているのか知らないのです」（ルカ23:34）というのは人間の唇から今までに発せられた中で最も

崇高な言葉だと言われてきたのです」と言ったとあります。

7. 『パウロ』パウロとはギリシャ語の氏名であり「小さい」を意味したという。「パウロは背が低かったのでこの名を採用したのかもしれない」とあります。塚本牧師はよく「パウロがいなかったらキリスト教はなかったのではないか」と言われます。平山牧師は、パウロは、蟹股で、トラホームで癩癩だったと言われていました。

8 『ガラテヤ書』この書はパウロの著作の中で最も自伝的な手紙であり、ロマ書に次いで一番神学的なものである」ともあります。

9. 『ロマ書』（1）従ってパウロは真理について幾分かの豊かで組織的な陳述をします。これを彼は主に（おもに）説教の中で述べて「キリストを通して人間の罪と神の恵み」を表したのです。

（2）生きている聖霊の力による品性と命がパウロの説教した救いの本質的部分でありました。

（3）人間は全てが罪人であり救いを必要である。

価値 「ロマ書」は世界が今までに見た中で最も力強い書物の一つであることを証

明した。

(4)「ロマ書」は何世紀にも亘り幾分か見落とされてきたが、ルターによる再発見のお陰でプロテスタント教の精神面への影響は計り知れないものであり、この影響は様々な大きさで最も深遠なキリスト教思想家たちの間で今日までも生き続けているのである。

(5) 英国の詩人で哲学者でもあるサミュエル・テラーは「ロマ書」を存在しているものの中で最も深遠な書と呼んだ。

10. 『コリント書』パウロがコリントに来たのは多分A. D. 51年の初期で22年の秋にここを去った。コリントの町とは性的快楽に甘やかされ過ぎた商業の中心地であった。人種も色々で時には人口も移ろい易い町だった。

(6月29日主日礼拝説教要約)

牧師館便り

☆皆様お元気ですか。

「葡萄の香」第十一号をお送りします。

酒田の夏は非常に暑いです。でもその暑さの中で園児は水遊びに興じて幸せ一杯です。

☆牧師の夏休み

牧師は6月24日から7月4日まで、「ギリシャとイタリア パウロの旅」5日間「聖書を体験し発見する旅」に参加しました。

成田空港からトルコ空港で1.5時間イスラエルに、乗り継ぎで1時間30分でテサロニケ空港に。

25日、テサロニケで、考古学博物館、デイミトリウス教会、アゴラ遺跡、海岸のアレクサンダー大王の像、上の町からテサロニケの町を一望。

26日、パウロが伝道した町ベレアとベラ。パウロ記念館、ペラの遺跡

27日、カバラ(ネアポリス)パウロ上陸記念教会である聖ニコラオス教会、パウロが歩んだエグナチア街道。フィリピ、フィリピの遺跡、ユダヤ人の祈りの場で清水の流れるルデア川、その後カバラ空港からアテネへ。

28日、アテネ市内見学。パルテノン神殿跡アクロポリス、パウロがギリシャ人に説教したアレオパゴスの丘、古代の政治・宗教・文化の中心アゴラ、大木の木陰で主日礼拝。その後、国立考古学博物館。

29日、コリントへ。コリントの運河、コリントのポリスの遺跡、コリント遺跡博物館。

館。パウロが誓願を立てて剃髪したケンクレアの港、海底に沈んだシナゴグ。イオニア海側の港町パトラから船でイタリアのブリンデシへ。

30日、とんがり屋根の町アルベロベッロ見学、洞窟の住居密集地マテラ見学。

1日、ナポリ。イタリアに上陸したポツオリの港、サンタルチアの港。ベスピオ山の噴火により埋没した古代都市ポンペイの遺跡。その後ローマへ行きアッピ街道、パウロの殉教の地トレ・ファンターネ(三つの泉)教会。

2日、バチカン。サンピエトロ大聖堂、コロッセオ、フォロロマーノ、パウロとペテロが投獄されたカルケル・マメルティーノ牢獄。パウロが住んでいた家と言われるサンパウロ・アラレゴラ教会、アッピア街道。

3日、ローマからトルコ空港でイスタンブールへ。乗り換えでトルコ空港から成田空港へ。一泊する。

4日全日空で庄内空港へ。

☆すべてのものから解放されて、ひたすら聖書の御言葉の研修旅行でした。パウロが身近に感じられ、パウロ神学がより深く理解出来たような気がする。(塚本恭子)